

暑熱時の乳房炎対策

夏場は高温による乳房炎原因菌の増殖、暑熱ストレスによる採食量や免疫力の低下など、乳房炎に感染する危険性が増え、経済的にも大きな損失につながります。

表1は体細胞数と乳量の損失割合を示したものです。年五百tの生産量で体細胞30万の場合、**損失金額は約三百二十万円にもなります。**

表1 体細胞と乳量の損失割合

体細胞数(万/ml)	乳量損失(%)
14~20	5
21~40	8
41~120	9~18

注) 10万/ml以下を0%とした場合(Q&Aで理解する乳房炎コントロール77:デイリーマンより)

体細胞数30万/mlの損失金額 (年生産量500t、乳価80円の場合)

乳量損失 : 8%(表1より)

損失乳量 : 500t×8%=40t

年損失乳代 : 40t×80円=320万円

一 牛床を清潔に保つ

○除ふん・敷料交換を徹底
 湿った牛床は、乳房炎原因菌にとって絶好の場所です。牛舎内を換気し、常に牛床が乾燥した状態を保ち、除ふんや敷料交換もこまめに行い牛床を清潔に保ちましょう。

○消石灰で消毒を

消石灰には乾燥・消毒効果があります。牛床、通路の除菌後に散布しましょう。

左表(表2)はオガクズ(百分)に対して各濃度の消石灰を混合し、クレブシエラ菌を接種混合後、三十分後、二時間後に菌数を観察しました。消石灰を、重量比で三程度混合すれば消毒効果を上げることが出来ると考えられます。

表2消石灰によるオガクズの消毒効果(村田)

オガクズ中の石灰濃度(%)	オガクズ中のクレブシエラ菌	
	30分後	2時間後
0	6.2×10^5	5.2×10^5
1	4.2×10^4	9×10^3
3	$< 10^2$	$< 10^2$
5	$< 10^2$	$< 10^2$
7	$< 10^2$	$< 10^2$

No.273 畜産会経営情報 p14より

二 暑熱ストレスを回避

○牛体への送風・換気
 夏場は熱の発散部位である首から肩(牛の上半身)への送風が効果的です。また最近では換気扇の台数を多く設置する事例も見られます。

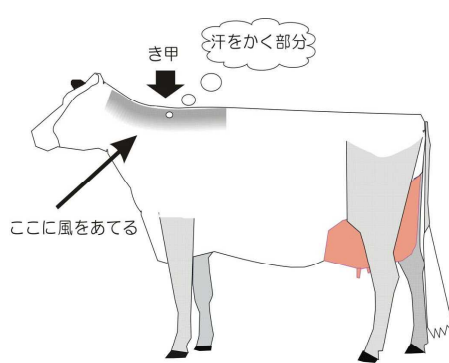


図2 牛に風をあてる部分

○新鮮な水を与えよう

飲水量の制限は乳量、採食量に影響を及ぼします。日を決めて定期的に清掃し、ウォーターカップの弁、吐水量に不具合がないか確認しましょう。



写真1きれいなウォーターカップ

三 牛の採食量や

免疫力を高める

○消化率の高い繊維の給与
 刈り遅れの粗飼料は消化に時間を要し、熱発生量の増加、採食量の低下を招きます。消化の良いエサを与え、暑熱ストレスを軽減しましょう。

表3 エサの消化性

エサの消化性	エサの種類
良い	・ビートパルプペレット
普通	・細切サイレージ
劣る	・ロールサイレージ ・乾草

○ミネラルの補給

夏場は発汗量の増加によりミネラルが不足しがちです。分娩前後や高泌乳牛、食欲不振の牛には一割〜二割増給しましょう。

○重曹の給与

夏場は、涼しい夜間でのため食い、反すうの減少によりルーメンアシドーシスの危険性が高くなるので重曹(百〜二百g)酸化マグネシウム(五十g)を給与しルイメンPHの安定化を図りましょう。